

2021/1/31 顕現後第4主日

東京聖三一教会 マタイ 25:31-46

司祭マリア・グレイス笹森田鶴

キリストがつなげてくださる

島から内地へと千キロの道のりを移動して東京聖三一教会での営みに携わる機会を与えられていますが、残念ながら皆さまに直接お会いすることがままならない状況が続いています。

そのような時期にあっても、時間というのはいつの時代とも同じように進み、時は流れていきます。そしてキリストにあって神さまの家族である皆さんと同じ暦の中で、今日は顕現後第4主日です。

さらに、今週の2月2日火曜日、わたしたちは被献日を迎えます。その被献日を起点に主の顕現の祝いから大斎節(今年は2月17日が大斎始日)に向かう備えへと、心持ちを変化させながら過ごしていくこととなります。このような大切な一週間を今日からわたしたちは過ごそうとしています。

時というのがただ流れていくのではなく、そうやって同じ暦の色彩を共有しながら時を刻むことによって、わたしたちはこのコロナ禍の世界の只中で共に集えない状況にあっても、時の流れを巡礼として捉えていくことができます。一日一日の積み重ねという時の巡礼の中で、キリストの姿を追い求めることができます。そのことを意識しながら、今週を過ごされることをお勧めします。

さて、そのような大切な一週間の主日に与えられている聖書箇所は、「カファルナウムの一日」と言われる出来事の前半部分になります。「カファルナウムの一日」とは、マルコ福音書1章21節から34節までの出来事を指します。そしてこの一日の出来事は、主イエスさまが生涯を通して果たされた職務を一日に

凝縮している、とも言われています。

今日の福音書では、主イエスさまの存在そのものからにじみ出てくる神さまの力を人々は目の当たりにする出来事が起こりました。それは汚れた霊を追い出すという奇跡の出来事に象徴的に示されています。

「汚れた霊」とは悪霊のことです。霊には良い霊と悪い霊があります。そして悪い霊は、病気や障害、天変地異などによって人間に災いをもたらします。

どのような災いかと申しますと、病気や障害などを要因として、神さまと人が分断されるという災いです。病気や障害などによって神さまとの関係が断ち切られてしまうように思い込ませ、当事者を混乱させるのが悪霊の働きです。ことに古代では、理由や原因が不明であった病や障害を悪霊の仕業だと考える傾向が非常に強くありました。

そのような状況の中、主イエスさまは汚れた霊をご自身の言葉だけで追い払います。何か魔術的な行為をするわけでもなく、腕力で抑えるわけでもなく、ただ、汚れた霊を「叱る」だけでその命令に従わせたのです。

「叱る」とは、ある行動をとらせないため、あるいは終わらせるために、叱る・戒める・いさめる・真剣に話す・警告する、などの意味をもつ言葉です。

主イエスさまは汚れた霊だけではなく、時には弟子をも叱り、戒めます。また嵐や湖や波にも叱ります。ペトロのしゅうとめをいやすために熱も叱ります。

主イエスさまは悪霊や汚れた霊に対して容赦しませんが、それが弟子であっても神さまから引き離す行為であれば、叱り、戒め、そのような行為を終わらせようとしてくださいます。そうやって苦しんでいる人間を解放し、再び神さまとの関係にとつなげてくださるのです。

き、世界に発信していきたいと祈り求めます。

そうやって今のこの時代の一日一日をともに力強く歩み、進みたいと心から願います。

ですから、この悪霊追放の奇跡は単なるひとつの主イエスさまのすばらしさを現す出来事というだけではなく、主イエスさまの福音宣教と切り離せないものです。神さまの救いの業そのものだと言えます。この世界にある悪霊の支配、つまり神さまから人間を引き離そうとする悪霊の働きは、主イエスさまによって終わるということを示しているからです。

悪霊追放の出来事は、神さまとの交わりを妨げられていた人の解放の出来事でした。この世における神の国の実現の出来事でした。それが主イエスさまの言葉によってのみ起こり、人々が目の当たりしたという衝撃的な出来事が今日の福音書の物語です。

わたしたちは今まさに世界中の人びとと共に天変地異を経験しています。災害の真っ只中とも言えます。多くの人々が病を負い、それゆえに後遺症に悩み、数え切れない人々が亡くなり、また職を失って生活が一変しています。目の前の出来事は神さまから見放されてしまっているように見え、絶望という言葉がわたしたちを取り囲んでしまいそうです。それが現代の悪霊の仕業であり、ねらいでもあります。

けれどもそのような状況にこそ、神さまは働かれています。キリストがカファルナウムの街の会堂に入っていたように、その只中に来てくださいます。

そして神と人、人と人の間に入りこんでその関係を壊そうとする悪霊と対峙し、叱りつけ、そのような状況を終わらせようとしてくださっています。神さまから離れてしまっていると思い、混乱している人を解放し、神さまに再びつなげようとしてくださいます。

ですから、このカファルナウムの会堂で起こった出来事を今も世界中で起こっているキリストのみ業として受け止め、それが神さまの權威によって起こっていることに希望をお